

第2次小城市男女共同参画プラン策定に伴う

高校生ワークショップ

発行日：平成28年6月
発行者：小城市 企画政策課

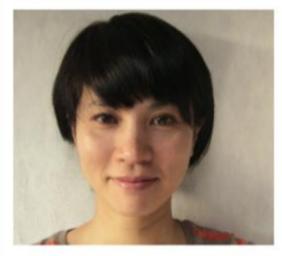
平成28年6月9日(木)、第2次小城市男女共同参画プラン策定のため、佐賀県立牛津高等学校の生活経営科2年生39名を対象として、高校生ワークショップを開催しました。

ファシリテーターに高崎恵さんを迎え、若い世代の人達が様々な分野で性別に関わらずひとりひとりの個性、能力を十分に活かすには、どうしたらよいか考えました。

スケジュール

1. 小城市男女共同参画プランについて
2. ワークショップ『ひとりひとりを大切にできる社会へ 私たちができること』

ファシリテーター



高崎 恵さん

1974年鹿児島市生まれ
かごしま女性政策研究会会員
男女共同参画関連講座における、ワークショップの有用性を実感し、学校、地域、自治体、企業等においてワークショップという学びのスタイルで男女共同参画を学ぶ講座を実施されている。

男女共同参画社会

～男女共同参画社会とは～

男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会

(1999年制定 男女共同参画社会基本法前文)

男女共同参画を取り巻く法制定等の動き

- 1985年(S60年) 「男女雇用機会均等法」公布(1986年施行)
- 1999年(H11年) 「男女共同参画社会基本法」公布・施行
- 2000年(H12年) 「男女共同参画基本計画」策定 【国】※以降5年ごとに見直し
- 2001年(H13年) 「佐賀県男女共同参画基本計画」策定 【県】※以降5年ごとに見直し
- 2007年(H19年) 「小城市男女共同参画プラン」策定 【小城市】※10年後に見直し
- 2017年(H29年) 「第2次小城市男女共同参画プラン」策定予定【小城市】

ワークショップ

＜I＞ アイスブレイク

利き手でない方の手で名前書き



書いた名前を見せ合い、自己紹介と書いた時の感想を話し合う



利き手でない方の手で名前を書いた感想を発表

- 慣れていないことや初めてのことは誰にとっても難しい!
- みんなに初めてがあり、できないことがある。
- 日本人は、子どもから大人まで発表することが嫌い。⇒それは、**違いを恐れている**から。
- 「違い=間違い」ではなく、違いこそが「宝」であり、違うからこそ尊い。
- 意見があるのならきちんと発信していく練習をしていくことが大切。
- 『**違いは、間違いではない**』のだから。

＜II＞ ちょっとゲーム

言葉で出される6つの指示を聞いてお絵描き(Oや△を使った簡単な絵描き)

約束!! ①しゃべらない ②のぞかない



背中に貼られたシールでグループ分け

約束!! ①しゃべらない ②シールをはがしたり、何かに映したりしない。



自分が描いた絵をグループで見せ合って、絵を描いた時の気持ちや見せ合った感想を話し合う
ただし・・・(次頁へ)

- **言葉を遮断**されたとき、とても戸惑ってしまう。
- 今回のシールは、色がとても目立つため、**色という1点に集中**すると、**形は同じという感覚を見失**ってしまう。
- 人に置き換えると、属性(性別・学歴・年齢・職業 etc.) が色々あるのに、**目立ちやすい事に焦点を当て評価**してしまう。
- 最たるものが性別であり、「**男のくせに・・・**」だとか、「**女だったら・・・な職業がよい**。」などと言ってしまう。
- 本来は、**性別にかかわらず、ひとりひとりに色々な個性と能力があるのに・・・**

